

市内3ロータリークラブが一体となつての東日本大震災復興支援

2月18日、大槌湾ホタテ養殖組合より齊藤組合長・越田副組合長そして大槌出身で川崎在住の川端さんが、復興支援の情報交換に茅ヶ崎にお出でになりました。



まずは、茅ヶ崎中央RC堀川会長より、震災以降の大槌町へのこれまでの支援についての経過報告、池亀会員・山本会員の現地での活動報告、茅ヶ崎湘南RC渡邊2010年度会長の茅ヶ崎湘南クラブの支援による茅ヶ崎の漁業者が提供した漁船の運送を担った支援を始めこれまでの支援の経過報告、茅ヶ崎RC和田会長からは、仙台RCとの連携の中での震災遺児支援などの支援の経過報告がされました。



茅ヶ崎湘南RCで現地の生の声を聴き、できる支援を探すために、例会の卓話に来て下さった川端さんの縁で、今回の大槌町との橋渡しとなった茅ヶ崎湘南RC加藤会員から、当初より大槌への支援活動が続けている茅ヶ崎中央RCへの協力依頼があり、その後、市内3クラブでの支援体制の確立までの経緯や、支援のための東日本復興基金との折衝による資金援助ができるようになったことの説明がなされました。

齊藤組合長からは、震災後の状況から始まり、今年一月に新たに大槌湾ホタテ養殖組合を設立し、8名の仲間と再出発に向けての準備を進められている報告や、今後の事業再構築に向けての計画の説明を聞かせていただきました。震災ではすべての資機材が滅失し、再出発には、大変な自己負担が強いられる中で今回の申し出を大変感謝していただきました。



双方の情報の交換後には、一日も早い復興を祈念し乾杯をし、懇談の場になりました。懇談の場では、資機材の支援のみならず、茅ヶ崎市内3クラブが中心になり、大槌のホタテをもっとPRしていくために積極的に市のイベントでの販売会を催していく計画や、さっそくロータリアンのネットワークを使い茅ヶ崎魚市場への協力依頼が行われたり、商店街の魚屋さんにも途中より参加していただきました。

今回の支援だけでは、まだまだ十分ではないものの、市内3クラブとも今回の縁をいつまでも大事にし、未永い支援を約束しました。

